

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、2月8日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷が続く中、持ち直しの動きに一服感がみられる」として、基調判断を据え置きました。

今月も、ポイントは個人消費です。自動車に加え、12月からはエコポイント制度変更に伴い家電（薄型テレビ）も大きく減少するなど、一部耐久消費財が駆け込み需要の反動から減少しています。一方、公共投資請負金額は1年振りに前年比プラスとなりました。もっとも、公共投資を取り巻く環境は引続き厳しいとみられます。雇用環境は、厳しい状況にありますが、改善の動きがみられており、均してみれば厳しさの程度は幾分緩和しています。

今月の特徴的な動きについて、やや詳しく説明すると、下記の通りです。

- 個人消費では、引き続き一部耐久消費財（自動車、家電）が、駆け込み需要の反動から減少しています。12月は、新車登録台数（含む軽乗用車）が3か月連続で前年比△20%を超える減少となったほか、家電では12月からのエコポイント制度変更（ポイント発行数が約半分となった）に伴う薄型テレビ販売の大幅減を指摘する声が、一部大型店（郊外型大規模ショッピングセンター）からも聞かれました。これが、道北地区の12月大型店売上高減少（前年比△2.8%）の一因となっています。ただし、駆け込み需要の反動減の影響は、今後更に大きくなるよりは、時期について見方は分かれるものの、徐々に薄まっていく可能性が高いと見る向きが多くなってきています。
- 公共投資は、低水準ながら12月の公共工事請負金額が1年振りで前年を上回りました。これに伴い基調判断も、「大幅に減少」から「減少」に変更しました。前々月から今後の注目点として指摘していた予備費や補正予算執行の効果が、年度末ないし来年度初にかけて現れてくると見込まれ、当面前年比ではプラスが続く可能性があります。ただし、これで公共投資が基調として持ち直さないし増加に転じたとは判断するのは早計です。23年度の北海道開発事業費は前年度比△8.3%の減少となる計画であるなど、公共投資を取り巻く環境は、今後とも厳しいとみておくことが適当でしょう。
- 雇用環境は、厳しい状況にありますが、12月の常用新規求人数が前月に引続きプラスとなったほか、有効求人倍率も、稚内を除く全地域が前年同月を上回るなど、改善の動きが見られており、均してみれば厳しさの程度は幾分緩和しています。ただし、各地区の有効求人倍率の前年差から判断する限り、改善ピッチが昨年秋以降やや鈍化していること、前月指摘した通りです。

本日、22年中の「道北主要経済指標（年間）」も公表となりましたので、一言コメントします。前年より改善した指標は、漁業水揚、製材、確認申請床面積、確認申請住宅戸数、新車登録台数、空港旅客数、電力消費量、新規求人数です。一方、前年より悪化した指標は生乳、公共工事請負額、貨物輸送量です。貨物輸送量の減少は、多雨・猛暑の影響から不作の農作物が多かったことを反映しています。また、公共工事請負額は大幅減となりました。明暗入り混じった動きですが、どちらかと言えば改善した指標の方が目立っています。これらの指標や短観結果等を踏まえ、道北経済は大局的にはリーマンショック後の大底を脱し、緩やかな持ち直し局面にあると判断しています。ただし、建設のウエイトが高く、輸出関連製造業のウエイトが低いという産業構造上の特徴もあって、持ち直しの勢いの強さは全国対比弱めであるように思われます。

旭川冬まつりがいよいよ本日から開幕です。関係者のご努力が実り、今年も大変迫力ある見事な雪像・氷像を堪能できそうです。道北の冬は初めてですが、層雲峡氷瀑祭りやオホーツクの流氷ツアー等厳しい自然を逆手にとった様々な催しものは、見応えがあって素晴らしいといつも感動しています。層雲峡、ガリンコ号などでは、アジアからのお客さんも大勢いらっしゃっていました。うまくPRして、ぜひもっと大勢の観光客に道北の冬の醍醐味を味わっていただきたいものです。

平成23年2月8日

荒木 光二郎